

2泊3日、広島・岡山への修学旅行、平和記念公園でのフィールドワークと平和セレモニー。3日目のソラカケルも忘れられません、2日目の倉敷美観地区での散策、なにより鷺羽山ハイランドでの班単位での乗り物乗り放題体験。ほぼ貸し切り状態で、みなさん一人ひとりととても楽しいひと時を過ごすことができました。修学旅行の中で、何よりもみなさんのやさしさ・暖かさを学んだことが、一番の収穫であったと思います。

体育大会・修学旅行も春から秋へ移動となり、文化発表会やテストとの共存と非常に忙しい思いをしました。しかしながら新校舎も完成し、晴天の中、本校グラウンドで実施できたことは、良い思い出となりました。3年生の学年演技「ソーラン節」は、見るものに感動を与え、胸を張り誇れるものでした。1・2年のときから集団創りを大切に考え、生徒たちの自主性を尊重し、「生徒が主役」の体育大会を目指し練習をしてまいりました。その結果、みなさんの演技は、新生玉出中学校を象徴する内容でした。

「なかま」を感じられた瞬間ではなかったでしょうか。

文化発表会も、素晴らしいものができました。修学旅行でやり残したものを、総合芸術として、展示物や各クラス・学年合唱で発表することができました。

みんなで協力することの、大切さがわかったことと思います。

地道な活動の積み重ねが、伝統を育み、玉出中学校の「真の力」となっています。苦しかった部活動、夏の暑さ、冬の厳しい寒さ、しんどくつらい練習に耐え、大きく成長した君たちを見ていると、「よく頑張ったね」と、心の中で、君たちの頑張りを褒めていました。

今となっては、良い思い出として残っていることでしょう。

伝統ある、この玉出中学校、君たちが繋いだものが、誇りとなり、自信となって、生き続けるよう、在校生と共に守り育てて行きたいと考えています。

これからも自分たちの、生きていく街・地域を大切にしてください。

「人生は、片道切符の旅である。行きは、あるが帰りは無い」とは、司馬遼太郎の言葉です。

15年の人生の旅を終えて、今、新しいステップを踏み出そうとしています。歩いていく道は、それぞれ違いますが、それぞれの前途に広がる人生には多様な選択肢があります。進む道は、けっして一つではありません。

「世の中の人々は、何とも言えば言え、我がなすことは我のみぞ知る」とは、幕末に新しい日本を創るために命をかけた坂本竜馬15歳の時の言葉です。他人とは違ってても良い、自分に自信を持ってそれぞれの人生を歩んでください。何となく他の人と同じでないと、同じ行動をしていないと安心できないと思っていないでしょうか。自分には、人とは違う良いところがあると気づいていないから他人と合わせることでばかりに気を遣うのです。

全ての人に、誰にも負けない才能が必ずあるのです。まだ、気づいていないだけです。それに気づくには、待っていても気づきません。

今、自分に出来そうなこと、頑張れば出来そうなことから積み重ねる努力を、日々行うことこそ大切です。その日々の努力の中で自分の才能に気付く時がきってきます。しかし、「チャンスの神には、後ろ髪がない」のです。気づいて振り返ってチャンスをつかもうとしてもチャンスの神はあなたの前を通り過ぎた後です。後ろ髪がないために追いかけてもつかめません。

これからの人生の中でそのチャンスをつかむことができるように努力を忘れないでください。

68期生のみなさん、そろそろ別れの時が来たようです。

新しい世界に旅立つみなさんと、この玉出中学校で生活したこと、ともに汗を流したこと、そして、「人にやさしい生徒・人にやさしい玉出中学生」を、一緒に学んだことを、「チーム玉出」を誇りに思っています。

みなさんの青春の思い出が一杯詰まった、この玉出中学校を、忘れないでください。みなさんの未来が、輝かしく、幸多いことを心より祈念して、式辞といたします。

令和3年3月12日

大阪市立玉出中学校 校長 村瀬香織

祝 辞

卒業される106名の皆さん、この伝統と歴史のある玉出中学校に入学してから3年が過ぎました。そして本日めでたく卒業されます。ご卒業、誠にめでとうございます。

3年前、皆さんは大きな希望と期待を胸に、この中学校の門をくぐった事でしょう。そして3年間、苦しみ悩むこともあったでしょうが、それに負けることなく、生活態度を正し、勉強に、部活動に、生徒会の活動に、それぞれが励み、しっかりと結果を残してきました。後輩にもたくさんの手本を残してくれましたね。ありがとう。皆さんの活躍をととても誇らしく嬉しく思っていました。

昨年から続くコロナ禍で日本だけでなく、世界全体が生活習慣、勉強、仕事の進め方、色々な変化がありました。それにも対応し、日々乗り越えた皆さんは素晴らしいです。義務教育を終了し、3年前より、ひと回りもふた回りも大きく成長した皆さんは、経験した事の無い新しい人生の一步を踏み出します。これからは今までのようにすべてが用意され、整えられているわけではありません。自分に必要な人、必要な物、必要な金を自分で見つけていかなければなりません。「教えられることより、自分で学んで行くことが大切」そういう言葉をよく耳にします。まさに、中学を卒業した皆さんに大切になってくるのは、自分で学んでいき、自立していくことです。自分で学んでいくためには、自分に何が必要かをまず見極めなければなりません。学ぶとは、机の上の勉強の事だけではなく、人間関係のありかた、社会のしくみなど、自立していくために学ぶことはたくさんあります。世の中には情報があふれかえっています。そこから何を学んでいくかは、学ぶ人の姿勢によってまったく違ったストーリー(人生)になるでしょう。家族、地域、先生方、日々出逢って来た人達のお陰様で成長できた事に感謝し、3年間培ったご縁を大事にしてください。そして、チャレンジ、失敗を繰り返し、今から人生の経験値を積み上げて人間味ある素晴らしい人になってください。

保護者の皆様、お子様のご卒業誠にめでとうございます。心よりお喜び申し上げます。また3年間PTA活動へのご協力に、深く感謝いたします。

教職員の皆様、3年間ありがとうございました。コロナ禍で行事や、授業の対応を迅速にして頂きありがとうございました。卒業しても子供達のご指導、ご鞭撻の程よろしく願いいたします。それでは卒業生の皆さん、教えてもらうのを待つのではなく、自分から学び、挑戦する積極的な姿勢を持って、それぞれの道を歩んでください。皆さんの今後のご活躍をお祈り申し上げ、挨拶と致します。

令和3年3月12日

大阪市立玉出中学校 PTA 会長 富浦 一真

第68回 卒業式 学校長式辞・PTA会長祝辞

式 辞

漆黒の闇の中を、赤々と燃えるたいまつ火が、駆け巡る、古都奈良・東大寺のお水取りも終わりに近づき、いよいよ本格的な春の到来を感じさせる今日の良き日。本来でしたら来賓の方々を迎え華々しい中、みなさんの晴れ姿をお披露目するところですが、新型コロナウイルスの対応のため、来賓の臨席もかなわない卒業式となりました。しかしながらみな様方には、大阪市立玉出中学校「第68回卒業式」を、挙行できますこと、卒業生と共に厚く御礼申し上げます。

また、保護者のみな様におかれましては、お子様のご卒業おめでとうございます。3年前、68期生として、玉出中学校の門をくぐられた時は幼かったお子様が、今、こうして心身ともに、逞しく成長されました。その姿を目の当たりにされさぞ喜びのことと存じます。子どもから大人への「架け橋」ともいえる、多感なこの時期、お氣遣いや、ご苦労があったことと、お察し申し上げます。

お子様の卒業後も、玉出中学校を、温かく見守って頂きますよう、お願い申し上げます。

残念ながら卒業証書は、式場において各クラス代表者への授与となります。ただ106名の卒業生全員には、式後の学級活動で担任の先生より卒業証書をお渡しいたします。

9年間の義務教育を終えた今後の人生において、色々見えてくるものがあります。新型コロナウイルスの今後の対応、波乱含みとなった東京オリンピック、ワールドマスタースゲーム、大阪万国博覧会等々…。大きな課題と催し物が待っている日本、その中で国際社会に向けて、旅立つ日を迎えることになりました。ただ、君たちは、これからの日本を支える、大切な宝物です。しっかりとした目標を持って、前に前にと進んで欲しいと願っています。

また、みなさん一人ひとりの胸中には、玉出中学校の、3年間の数々の思い出が、走馬灯のように、駆け巡っていることと思います。私は、君たちとは3年間の付き合いとなり、今、君たちを送り出すことに、感慨深いものがあります。この3年間は、私にとっても、素晴らしい出会いがあり、たくさんの思い出がありました。